

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

文化交流体験 タイ・カンボジアへ



2月20日から3月4日まで、文化交流学科の科目として文化交流体験が実施された。学生18名が教員とともにタイとカンボジアに行き、アユタヤ大学、アンコール大学などを訪問、現地の学生や子供たちと交流を深めた。

別れを惜しんだ孤児院

文化交流学科 2年次 中野友実

2月20日から3月4日までの13日間、私は文化交流体験に参加してタイ・カンボジアを旅した。はじめのうちはほとんど観光が目的で、前々から一生に一度は行きたいと考えていたアンコール・ワットに行くことが出来れば満足だと思っていた。正直なところ、「文化交流体験」であるにもかかわらず現地で交流会などはこの頃の私にとってはただのおまけにも等しかった。実際、念願だった遺跡巡りや日本では味わうこと

残したが、その中でも特別だったのはカンボジアの孤児院で出会ったひとりの女の子だった。孤児院を訪問した際、私が首から提げていたカメラをきつかけに私はある少女と仲良くなった。そこにいた時間のほとんどを私は彼女と一緒に過ごしたが、別れの時間が迫った時、彼女は何かを言わずに私のそばから離れて行ってしまった。他の人へ別れの挨拶をしに行ったのかと思ったが、彼女はまもなく小さな紙を

うなってしまうのだろうか、と漠然と思い込んでいた。一緒に遊んだ子どもがこれきりにならないことを望み、それを行動で示してくれる可能性をまったく考えていなかった。無意識にこれきりだと思いながら一緒に遊んでいた私の心が彼女に伝わってしまったのではないかと怖くなった。私に名刺を差し出した時の小さな声は、私のそんな心を感じ取ったからだったのではないか。そんな思いが渦を巻いて、楽しかった思い出と共に今も鮮明に私の中に残っている。

この他にも多くの人といろいろな形で関わって、いくつかの苦い経験をし、また数え切れないほどの楽し

この出来ない食事、タイ・カンボジアならではの街並などを楽しむことが出来たのも最高の思い出ではある。だがこの旅を一番充実させてくれたのはやはり旅先でさまざまな形で関わった人々だ。その誰もが私に強い印象を

持って戻って来た。それはその孤児院の住所と代表者の名前が書かれた名刺で、それを差し出しながら小さな声で「Letter Please」と言う彼女に、私は必死で笑顔を作って、「Many letter」とうなずいた。孤児院の子どもたちは別れをとでも寂しがるといことは事前授業で聞いていたのに、自分はずっとその別れを当たり前の前提として、心のどこかに「今日のこの時間限り」という思いを持ってそこでの時間を過ごしていたというのではない。そ

い思い出もできた。いろいろな事態に直面し、何度もち込んだり腹を立てたり悩んだりして、いまだに残るもやもやはどうしたらいいのか結局まだわからない。だが、自分にとってこの旅はとても良い経験であり、広い視野で物事を考えるきっかけとなったことは間違いない。マイナスの感情を伴う経験や思い出も自分にとって何かしらプラスにしていけたらと思う。

最後に、事前準備の段階から旅の終了まで迷惑をかけてしまった先生方、茨キリのみんな、13日間同室で毎日一緒だった友人、心配しながらも送り出してくれた家族、そして私たちを迎えてくれた現地の人々に、



孤児院の子どもと、中野友実さん

料理もおいしい人も暖かい

文化交流学科 4年次 羽持雅美

私は昨年に引き続き、今年二月にもタイとカンボジアの二カ国を訪問した。昨年は初めての海外旅行ということもあり、楽しみな気分もあつたけれど不安や緊張も大きかった。今回は二度目という事もあり、不安が全くなかったわけでは

なかつたけれど、以前より気持ちに余裕があつたと思う。去年はタイとカンボジアの国境付近でストーリーアの国境付近でストーリーで、今年はどうなるかとどきどきしていたのだが、特に何事もなく通り抜けることが出来て正直ほっとし

【6面に続く】

編集後記

09年4月号目次



ジェムリアップ児童養護センター

この場を借りて感謝の気持ちを伝えたい。
*現在の日本の福祉関連用語としては「孤児院」という言葉は使われていません。また、「孤児院」という言葉に差別的な意味合いを感じる人もいます。しかし、「中国残留孤児」といった用語もあります。ここでは、カンボジアの現実の必要から生まれた施設として、現地で英語で話るときに使われる orphanage の訳語として「孤児院」という表現を使っています。【編集部】

- 1面 ◆文化交流体験 感想
- 2〜3面 ◆学科教員紹介
- ◆ICアカデミー受賞賞
- 4〜5面 ◆梁谷先生インタビュー
- 6面〜7面 ◆文化交流体験 続き
- ◆一年を振り返って
- 8面 ◆就職活動 実況中継
- ◆文化交流力リーダー

文化交流学科 教員自己紹介

新しいゼミも誕生

学内の組織改編にもない、文化交流学科に和泉、掛川、瀧野、任の4教員が加わりました。ゼミの種類も増えてパワーアップした学科教員集団の自己紹介です。(藤田)

瀧野修先生



すらドイツ語とドイツ文学に浸り続けました。40年以上も通か昔のことです。

高校生のとき、授業で初めてドイツ語やドイツ文化に出会い、今までは違った世界を知ることになりました。外国といえばアメリカ、外国語といえば英語。それが普通だったあの頃(今も同じでしょうが)、英語の勉強に躍りとなった友人たちを横目に、元来《へそ曲がり》な私は、これをきっかけにひた

任利先生

皆さん、はじめまして、全学共通科目の「中国語」を担当している任利です。

私は生まれも育ちも中国の上海市という生粋の中国人です。どうぞよろしくお願います。

掛川富康先生

この4月から3、4年生のゼミを持つことになりました。

最近「グローバル・スタンダード」という、経済や金融の分野でしばしば使われる言葉を耳にします。「世界標準」という意味なのでしょうが、

往々にして「アメリカン・スタンダード」と同じ意味になっています。でも古今東西この地球に暮らす人々の生の営み文化は、「標準」や「規格」などといった言葉とは無関係なほどに多様です。皆さんには、初めて接するドイツ語とその学びを通して、ドイツの歴史や文化を知って欲しいと思います。

は、実は文化、習慣に大きな違いがあります。見た目が似ている分だけ、かえって互いの違いを大きなギャップと感じ、理解しがたいと感じることも少なくないです。

私は、中国と日本は似ているようで、やはり違うなあ、とつくづく思うのは、日中間でことばをめぐっての「誤解」がしばしば起こり、それによ



か。

いま興味を持って居るのは、第一次世界大戦頃の人たちの生き方、文化です。古代や中世も学生時代にやりましたので、本当は古い時代の方が好きなのですが。



それはともかく、お会いするのを楽しみにしています。

る感情のきしみが生まれたときです。共通点が多い国だけに、かえって「似て非なり」の部分に関しては違和感があるのではありません。

日ごろから感じていた日中両国の文化の共通点と相違点を、ことばというものを媒体にして、私と一緒に一度、見つめなおしてみませんか？



和泉涼一先生

文化交流学科の新入生のみなさん、ようこそ。ゼミとフランス語を担当している和泉涼一と申します。

「趣味や経歴を語れ」というご要望ですが、そう言われてみるとあらためて自分が無趣味な人間であることを実感しています。研究室の窓から空と海をボンヤリ眺めているのがいちばん気の休まる時間

細谷瑞枝先生

新入生の皆さん、はじめまして。「ドイツ語」、「基礎演習」、「欧米の文学」、「言語コミュニケーション演習」、「文化論演習」を担当している細谷です。

今年「文化交流体験」も担当して、9月にドイツのブレーメンとラトヴィア(つて知ってる？ 北欧のバルト三国の真ん中の国です)のリーガに行く予定です。ヨーロッパはまとまった時間が取れる学生時代に行っておきたいです。興味のある人は(もちろん、在学生も)、4月中旬に予定している説明会にぜひ参加してください。

授業に限らず、ドイツに関することならとりあえず何でも相談にのります。シオン館3階の研究室に気軽に遊びに来てください。

ですが、それを趣味というわけにもいきません。本を読むのは本業ですからこれも趣味ではないし、最近は音楽や映画にもご無沙汰です。まあ、緑の中をのんびり歩いたりするのが好きです、という程度でご勘弁ください。

大学ではフランス文学と文学理論を勉強しました。もともとは仏教に関心があった坊さんになりたかったのですが、オイルショック後の不況

佐々木冬流先生

冬流はペンネーム。本名は徹。北海道網走郡の生れ。立教大学卒。同大学院修了。東京に10年を過し鹿児島へ流れて3年。更に茨城に流れて？年(忘れた)。

趣味は時と場合で、無趣味にもなれる。専門は日本文学だが、目下日本文化・日本語をも担当。授業科目と授業内容については履修要覧を熟読

大学では経済学の後に言語学とか英語学とかを学んでいたので、現在担当している科目は、文化交流論、比較教育論、世界の英語といったもので、つながりがある言葉ればそういうものもあるかな...



で就職できずにウロウロしていたら、いつのまにかこうなってしまうました。いまだによくわからない人生です。



されたし。一見温厚な好好爺に見えるかもしれないが、案外きびしくて、点数はケチンボウである。ご用心を。

藤田悟先生

毎年夏には学生と一緒にカンボジアに行きます。学園祭ではアジアンバザールをやっています。一緒にやりませんか？



染谷智幸先生

専門は日本文化、とくに江戸時代の小説・歌舞伎・浄瑠璃などですが、昨今は、韓国の文化・文学、日韓比較文化なども手がけています。

いま、文化交流学科ではタイやカンボジアなどの東南アジアで交流の輪を広げるべく様々な活動を行っています。今年、カンボジアのアンコール大学との提携が進むはず。うまく提携が進めば、来年2月にカンボジアでイベントを行いたいと思っていますので、皆さんも注目して



アンコール大学の学生達と

猿田知之先生

皆さん、こんにちは。日本語学・言語学・言語教育などを担当するサルタです。人好きする要素の少ない学問分野ですが、できるだけ言語研究の面白さと楽しさを、講義の中で伝えたいと思っております。



ていってください。

また、ゼミで韓国の韓瑞大(韓大)の短期留学、そして、新しい授業では、漫画論や在日の韓国・朝鮮高校への訪問などを計画しています。

斎藤聖二先生

54歳。日本近代の軍事・外交を中心に研究しています。戦争とは一体何なのか、それを日本近代でなされた幾つかの戦争の原因・経緯・結果を見ていくことで知ろうとしています。とりわけ人の意思と歴史構造の関係を追って、構造の個人に対する力のありようを見極めたいと思っています。人は歴史の幅の中で動くほかないという事実は、当たり前前のことなだけけれど何とも興味深い事実です。明治の軍人達がその波の中で必死に

生きていく姿を、いま丁寧に追いつけています。講義は学生目線で、楽しく、決して傲慢にならないことを心がけています。駄目学生を持つ可能性のきらめきが好きです。斎藤に好かれていると思ったら、きみは駄目な学生です(笑)



岩間信之先生

新人生のみなさん、はじめまして。文化交流学科の岩間信之です。私の専門は人文地理学で、「まちづくり」や「観光」などを研究しています。趣味は、地元の人たちと一緒に面白い観光イベントを作ること、および貧乏旅行をすることです。最近では東南アジアにハマってます。いやあ、東南アジアは本当に面白い！



自由な勉強を楽しめる最高の学び舎です。書を漁るのも勉強、海外を放浪するのも勉強、バンドに熱中するのも勉強。興味のあることには、どんどん挑戦してみてください。さて、ここでクイズです。右の写真は、どこの国で撮ったものでしょうか？ よーく観察すると、あちこちにヒントが隠れています。

森謙二先生

専門は「法社会学」という分野で、簡単に言うと法を社会学的に考察するのが研究



て、滅茶苦茶小説を読んでいます。春江一也の『ウイーンの冬』を正月旅先の本屋で見つけ、はまってしまいました。それから『ベルリンの秋』『プラハの春』と読み続け、今は平野啓一郎の『葬送』を読んでいます。

堀口悟先生

私は、自分の趣味と研究テーマが一致しています。第一の趣味は、日本の伝統的な文化に触れる事で、「香道」や「小倉百人一首競技かるた」を楽しんでいますし、またそれを研究し、授業で実施しています。次には、読書が好きなので、日本文学を研究し、授業の中でお話しする事もあります。もともと、現在は日本文学の授業を担当していな



私はこの卒論で第1回 IC アカデミー賞を受賞しました！

小池 真理緒

08年度卒業生で、優等賞を授与され、卒業論文でも学科で最もすぐれたものに与えられる IC アカデミー賞を受賞した小池真理緒さん、現在はキャノンエレクトロニクス KK 勤務。

私は森先生の演習のなかで「大甕倭文神社の当屋制」について卒業論文を書きました。

大学の裏手にある大甕神社は地元の神社としてお祭りが行われていたこともあり、その祭りをを行う地元民(氏子)の組織について興味を持ったことがきっかけです。

卒業論文を書くにはまず文献を探して読みふけることや、インターネットで情報を集めることが多いと思います。私の場合、地元の小さな神社だったため文献はほとんどなく、調査の大半はお祭り組織の経験者の方から話を聞くことになりました。

その中で神社の歴史・日本書記に登場する神様が祀られていることや氏子組織の編成に変化があることが分かりました。地元の人々に話を聞いたため、口頭伝承が多く人によって内容が違うことがあり、正しい話を見極めることが大変でした。

これを調査したことによって、身近にある些細な疑問に対しても興味をもつようになりました。

まず気になることを調べてみて、理解していくことで徐々に論文になると思います。

C科(文化交流学科)は特に卒論の提出が少ないので皆さんもがんばってください！



沖縄・首里城にて 左が小池さん

染谷智幸先生

ロングインタビュー



妖しい研究分野

染谷：大学で勉強していたのは『国文学』です。江戸時代の文学・文化をやりました。

江戸時代の文化の授業は、実はね、文化交流学科では持ってないんですよ、だから僕の本専の専門は、皆さん知らないんです。江戸時代の文学、特にやわらかい文学です。例えば遊女とか遊廓(ゆうかく)とか、それから男色(なんしよく)とか。これは男同士の恋愛、同性愛です。そういう世界が僕の専門。で、アンダーグラウンド、かなり、怪しい世界を研究していますね。だから、あんまり授業で話できないんですよ。話してもいいんですけど、多分ひいちゃうんじゃないかと思ってる。そういうのを、大学時代に結

編集部そろって染谷先生の研究室に伺い、授業ではなかなか聞くことのできないお話をじっくりと語っていただきました。前後篇の二回に分けてお読み頂きます。

(文責：編集部)

構興味を持って、おもしろく勉強し始めましたね。

みなさんは、あんまり知らないだろうな、遊廓って、興味ある？

——あの『さくらん』の映画のような？

染谷：そうですね、『さくらん』の、あの世界です。女性たちを囲って、中には当然、売春があるわけですけども、女性を買いにくる男性たちが集まっていくわけですね。それが遊廓。今でいったら、ソープランドとか。ああいうのとはまた違うんだけれども、ちよつと説明しにくい部分ではありますけどね。ちよつと怪しい危ないデイズニード。そういう感じですか。江戸時代の遊廓というのは、今のソープランドとは全然違って、文化の中心地だったんで

す。文化発信地。江戸時代の文化は、みんなこの遊廓からスタートしたんです。遊廓に集まる男性たち、それから遊女たちが文化を生んでいったんですね。ですから、今でいえば、大学みたいなムードもあつたかもしれない……。例えば遊女が一番偉い人は、太夫(たゆう)っていうんですが、すごく知識があつて、今でいえば東大の大学院ぐらいの知識がないとなれなかったとか言われています。

——桜ですか？

染谷：そうですね、桜です。「花」といったら桜。「寺」といったら園城寺(おんじょうじ)とか、決まっています。

そういう決まったイメージがあるんですけど「遊ぶ」といったら、当時は、音楽、管弦なんですね。つまり遊廓とは歌手なんです。それが時代が下がるに従って、だんだんと売春的なものも絡んできた。そういう風に、今の遊女研究ではなっていますね。

「遊ぶ女」とは？

——遊女とか言うって、なんかあんまり勉強してないような、知識がないような……。染谷：それが違うんですね。その我々が知っている売春婦とかと、そういう世界とは全然違います。もちろん、そういう部分もあるんだけど、それとはまた違った豊かな世界があつたんですね。

みなさんね、古典の授業で古い平安時代のこと習ったの覚えてる？ 例えば平安時代に「山」っていうとどこか、

——遊女たちが発信した文化は例えば？
染谷：例えば俳句や短歌。こ

れは遊女だけじゃなく、遊廓に来る男性たちも作りました。それから、三味線とか、小唄(こうた)、端唄(はうた)とか、そういう昔ながらの歌という音楽。あと、浄瑠璃という人形劇。今、みなさんが一番知っている世界では歌舞伎ですかね。歌舞伎もこういう遊廓と密接に関係があつて。だから歌舞伎に登場する女性たちの多くは遊女です。

——なんか、すごいですね。大奥と似ていますね。

染谷：そうですね、大奥と似ています。遊廓もそうだしよ、女性たちが閉じ込められちゃつて。大奥も同じ。

こういう遊女たちのいろんな逸話が残っていますけど、そういうのは斎藤先生(本学教科員)がやっているような歴史、その表の歴史には絶対に出てこない。裏の歴史だけ

れども、その中に真実があります。人間が本当にどうやって生きてきたのか、というのが分かるんですね。

例えば、困窮した武士が、娘を遊廓に売った話がありまして。武士だから、遊廓に売つていうことは娘に言えない。その娘は遊廓を知らない。で、「おまえは、お嫁に行くんだよ」って言って、連れて行かれちゃうわけ。で、実はお父さん、裏でお金をもらっているわけです。それで娘は、

いっぱいあつたんだよね。だから表面的な歴史だけ見ても、分らない部分がいっぱいある。

男色＝純粋な恋愛

——男色で気になったのですが、男同士の恋愛ものの書物はあるのですか？

染谷：ありますよ。結構残っています。男同士の恋愛っていうのは、江戸時代盛んだった。というか、それが基本だったんじゃないかな。男同士の恋愛っていうのは、男と女の恋愛よりも、もっと価値の高いものだと、どうも思われていたみたいです。正確に言うと、男女の恋愛っていうのは、なかったかもしれないね。

——それは、子孫を残すため、ということですか？

染谷：そっちのほうが、強かったと思います。生殖の方が強かった。恋愛っていうのは、そうじゃない。もっと、純粋なもの。子供を残すため、子孫を残すため、家を継ぐためにするんじゃない。それから自分の性欲を満たすために恋愛をするのは、恋愛じゃないわけ。もっと純粋なもの。相手の存在を本当に思つて、

裏の歴史の中に

人間の真実が

学生時代は年中旅行 奥の細道を自分で歩く

相手を好きになって。自己犠牲ですね、当然。好きな相手のためなら自分は死んでもいい。そういうのが純粹な恋愛だとすると、江戸時代の普通の男女間にはあまりなかった。むしろ男同士のもの、女同士もけっこうあったんじゃないかって僕は思うけど、残ってない。男同士の間でそれがあつたんですね。武士道というのはまさに恋愛のことですよ。ほんとに好きになれないとできないですね。だから主君のために命を張るっていうのは、あれは主君への恋愛です。

遊廓にはむしろ恋愛があつたかもしれないですね。一般庶民には逆にあまりなかったかもしれないですね。親が決めた、何となく結婚しなくちゃならない状況に追い込まれたり……。だから恋愛って結構難しいですよ。純粋に恋愛をするっていうのは簡単にできないですよ。ますます変な話になりましたね。

——どんな学生時代でしたか？
染谷：サークルとか特に旅行ですね。とにかくいろんな旅行に行きました。僕は日本文学科だったので、海外はほとんど行かなかつた。国内は年がら年中、旅行していました。

——例えば、どこに行かれたのですか？

染谷：例えば、江戸時代の松尾芭蕉の『奥の細道』の大部分は歩きましたね。で、芭蕉と一緒に河合曾良（かわいそら）っていうお弟子さん（連れ）歩いて歩いたんです。平均するともうちょっと下がるんですけど、それが、すごいとみるか、でも今、女子マラソンは42キロを、野口みずきさんはじめ、2時間半ぐらいで走っちゃう。やっぱり、現代のほうがすごいかなと思ったり。江戸時代の人は、とにかく歩くのが好きだった、歩くしかなかった。それで、学生時代は結構旅行したりしました。これに合わせて、歩いたこと書いてある。

犬が好きな人は 猫派になってみる

編：「日本語I B」という授業を担当されていますが。
染谷：これは中国や韓国の留学生、それからアメリカから来る学生たちともやりませう。堀口先生もやってますけど、僕の方は毎年面白いのはディベートをやります。討論会をする。2つにわかれて意見を戦わせるんです。これは日本人が日本語でやるのでも結構大変なんです。韓国・中国人が日本語で、つまり外国語でやるっていうのは、多

とがあるんですね。だけど芭蕉のスピードはものすごく速くてね、一日に40キロぐらい歩いたんですよ。平均するともうちょっと下がるんですけど、それが、すごいとみるか、でも今、女子マラソンは42キロを、野口みずきさんをはじめ、2時間半ぐらいで走っちゃう。やっぱり、現代のほうがすごいかなと思ったり。江戸時代の人は、とにかく歩くのが好きだった、歩くしかなかった。それで、学生時代は結構旅行したりしました。これに合わせて、歩いたこと書いてある。



染谷研究室にて 先生と編集部員（左から、笹沼、長谷川、松本、鈴木） 写真＝佐々木

分ねすごく大変だと思うんです。ですけどすごい勉強になる。それで、まずは簡単な題材からいきます。例えば犬が好きか、猫が好きかで、犬派と猫派でやるんです。なぜ犬がいいかと4人ぐらいで力説するんです。猫派の人は、犬は毛がいつばいで汚いとか臭いとか。犬派の人は、犬は人間に対して優しい、猫は冷たいじゃないか、とか。猫派はその冷たさがいいんだとか。そういうふうにするんです。犬は結構人間に媚びるけど、猫はあんまり媚びないのね、わが道を行くで勝手にね。あれ

が良い悪いとか、好き嫌いをそういうふうにする。それから朝食にはパンがいいか、ご飯がいいか。その中でかなりヒートアップするわけですね。熱くなるんですよ。これがまた勉強になるんですよ。最終的には2チームのやり取りを聞いている別のチームがどっちが優勢だったかで判定するんです。勝ち負けがそのとき決まるわけです。負けるのと悔しいんだよ。何年か前、泣いちゃった子がいた。

島がどちらの領土であるかをやったんです。

韓国の留学生は当然竹島は韓国のものだと思ってるんです。日本側にも立ってほしいというところがあった。日本側の立場に立って、つまり自分がどう思っているかというのと別に考えてもらいたかった。

癌の告知であれば、告知した方がいいなと思う場合とそうでない方の立場もある。そうすると相手の立場がよくわかる。ディベートは物事を客観的に見る勉強になるんですよ。特に欧米の大学ではこのディベートをさかんにやる。だから客観的に物事を見ることができる。よく先生が客観的にものを見なさい、冷静に物事を見なさいと言ってますけど、簡単にできないんです。

「どうしても日本の立場に立てません」

でもね、例えばもう猫大嫌い、犬が大好きだと思ってる人はその立場から客観的に見ることはできないです。だからそのときは猫派の立場に立ってみるんです。自分の思考を全部取り払って、猫派の

立場に立って、犬派を攻撃してみる、そうすると分かるんです。こういう部分で猫の立場の人は見てたんだ。そうすると本当に後で犬派の立場に立ったときに猫派と正確で冷静な議論ができる。ディベートってそういう意味があるのね。

これをね、韓国の学生が多かつたんで竹島でやったんですけど、ちょっと失敗したんですね。やっぱり韓国の学生たちは日本側から見られないです。ディベートの前に僕のところに来て「先生どうして日本側には立てません」って涙をちよつとにじませながら訴えたから、あーこれはまづかつたなと、思ったんですね。簡単にできない問題ってのはあるんですね。

日本の学生はどっちでも多分できると思うんですよ。でも韓国の学生はできない。小さいころからの教育もあるかもしれないですね。韓国の学生には、客観的に物を見るといふことがどういふことなのか少し時間をかけて話してやらやつた方がいいのかもしれないですね。竹島の問題でやろうとしたのはまずかつたかもあって、ちよつと反省してるんですけどね。でも、なかなか面白かつたですよ。白熱しました。机を叩いたり。そんなような感じですよ。

白熱のディベートで 物事を客観的に見る訓練

【次号へ続く】

文化交流体験

【1面の続き】

た。けれど、働いている子供たちは数多く見かけたし、町中でも「ハロー、ワンダラー」とお金をねだって歩く子供たちや老人もいて、彼らの姿を目にする度に日本でぬくぬくと暮らしている自分はこれでいいのかと、いたたまれないような気持ちになった。私一人ではどうすることも出来ないけれど、せめて彼らのよ

うな暮らしをしている人々がいることを忘れないでいようと思う。

一緒に行った仲間たちとも、最初こそ、ぎこちなかったけれど最後にはだいぶうち解けることができた。夜集まってトランプで盛り上がったたり、怖い話大会が始まったり、今日どこへ行ったのか、明日はどこへ行くのかと他愛もない話ではしゃいだり、終始にぎやかな旅だった。後輩たちにとっては決して頼れる

先輩とは言えなかったと思うが、おかげで楽しい旅が出来たことを感謝したい。また、アンコール遺跡群を訪ねることは私が小学生だった頃からの夢で、昨年その夢を叶えることが出来て、とても嬉しく思っていた。今年またあの地に立つことが出来、去年より多くの遺跡をじっくりと巡ることができた。もう一度来ることが出来るとは思っていなかったもので、去年以上に嬉しい気持ちでいっぱいだった。

そして、去年と一番違っていた点は、やはりタイ・アユタヤラチャパット大学の学生との交流の時間が増えたことと、カンボジアのアンコール大学の学生と交流できたことだ。

何か日本文化の紹介を、というところで急遽ソーラン節を踊ることになったときは正直どうしようかと思っただが、幸いどちらの大学でも好評で拍手喝采を浴びることが出来た。学生たちとは学内や近くの市場、遺跡などを一緒に散策したり、昼食を一緒にとったりと楽しい時間を過ごすことが出来た。何より日本語を学ぶ



アンコール遺跡・バイヨンにて

ことに関する意欲が並々ならぬ様子で、アンコール大学では日本の児童書をお土産としてプレゼントしたのだが、思った以上に喜んでくれて、来てよかったと心から思った。日本語を勉強し始めてまだ一年ほどだという学生も多かったが、そう感じさせないほど日本語を使いこなしていた。もちろんそれだけの努力を重ねた結果だし、私も彼らに負けない位の努力を重ね、あ

文化交流学科での一年間を終えて

1、2年の必修科目・基礎演習はホームルームのような授業です。藤田担当の基礎演習ではほとんど毎回、ミニ発表をしてもらいました。1月になって後期の授業が終わるときには「一年を振り返って」の発表が課題でした。韓国からの交換留学生・李周美さんとの大森直浩君の発表原稿をご紹介します。(藤田)

日本での生活で一番記憶に残ることに触れることができるとは

韓国・明知大学からの交換留学生 李周美

私が日本に来てからもう10ヶ月経ちました。10ヶ月という時間は短い時間だと思ってもいいけれど、長い時間だとも思っています。私は日本人にも日本人にも思いますが、目標を持って来て、充実した時間を過ごしたと思うので、それほど長くも、短くも感じていません。



タイ・アユタヤ大学の学生と

と一年となつてしまつた大學生生活を有意義に過ごしていきたいと思う。私は幸運にもタイとカン

ボジアの二カ国を去年、今年と二年連続で訪問する事が出来た。今思うのは、二つとも絶対に行つて損はない国だということだ。二カ国とも素晴らしい遺跡が数多くある国だし、料理もおいしくて人も温かい。現地でもとてもよくしてくれたMPツアアの皆さんにも誘われているし、ひよつとしたら私の卒業旅行の行き先はここかもしれない。それくらい、大好きな国だ。

イラスト・さいひつろ



通じなくて大変だったし、あまりにもカルチャーショックを受けすぎて、韓国に帰つたら日本語をやめようと思いましたが、しかし残りの1週間のあいだに、もっと日本語を勉強して、私の気持ちを誤解なく伝えたいと思ひ直しました。そして日本の文化や生活にもっと触れて日本人とも普通に会話ができるようになると思ひました。これが私が10ヶ月間持っていた目標です。

私が日本で長期間過ごし変わったことが多くあります。まず、納豆がおいしくなりまし、3度くらいの地震には慣れました。それから朝はカラスの鳴き声で起きるようになったことがあります。これは1人で生活をしながら経験して変わったことです。学校生活でも韓国では経験できなかったことがたくさんありました。私は韓国の学校ではサークルにも入らず、ただ学校に通いました。もちろん韓国は学科別に部屋があつて、そこで集まるので、わざわざサークルに入らなくても人と触れる機会が多いです。サークルに入らなかつたのはサークル活動に自分の時間を使いたくないと思つたからでした。日本に来てあまり知り合いいなかつたのでサークルに入つていろいろと頑張りました。サッカークルに入つて、毎週練習したり、週末には試合を見に行つたりもしました。そして、文化祭では焼きそばを売りましたが、今までの中で一番売上がよかつたときでした。授業ではやはり何かを考える授業が多くて、自分の考えをまとめるようになりまし。特にこの基礎演習の授業では人前で話すことが多かつたので、心臓に毛が生えてきました。さて、これから私が話すこ

沖繩交流会で日本の文化にじかに触れた

とが、10ヶ月で一番記憶に残る出来事です。それは日本の文化に直接触れた経験です。私が日本文化の中で一番注目していたのは祭りでした。理由はそんなに深いことではなく、ただ皆が集まって楽しめるからです。また、見る人になり、祭りを通して町が繁栄するからでもあります。今から紹介する話は私が日本文化に直接触れたことにもな

知らないことは必ず質問して

初めに会ったときは集まった人の中で半分以上が知らない人でした。しかし皆は3、4年生でそれぞれ仲がよかったです。これで少し落ち込んでしまいました。しかし、私がソーキそばに入れる「かまぼこ」が食べ物か何かも知らなかったときは、「だめだ、頑張りなくちゃ」と思いました。やはり「息を抜く余裕もない」と思ったら頑張るしかないのです。

伝をしたりもしました。私がこの活動に参加したのは文化交流学科3年生の友達との誘いがあったからです。最

初めのころは皆が忙しいのにいちいち質問するのは迷惑をかけることだと思いましたが、しかし、だんだん適当にやっていてはいけないと思って、そこからは知らないことは必ず質問をして理解しながら活動を続けました。皆も絵を描いたりまでして優しく教えてくれました。祭りは11月でしたが、10月の下旬からは沖繩フェアが始まり、やることも多くなりました。皆と会う時間も増えました。そして気がついたら皆が仲良くなっていました。



いよいよ沖繩の学生が来て本番です。前夜祭は沖繩の食べ物や踊り、歌などを楽しみました。そして本番を通して沖繩にある米軍基地の問題ま

もたくさん話をする機会がありました。夜遅くまで三線の音が流れていたし、皆が集まって八重山踊りを踊りました。

私は沖繩交流会のことを祭りだと思えます。それは伝統的な食べ物があり、踊りや音楽があっただけではありません。人との触れ合いが大切で話し合う機会になり、分り合うようになったからです。私が日本に来て、しかも茨城に来て、こんなに沖繩の文化に触れることが出来ると

は思わなかったです。そして祭りの企画に参加できると思わなかったです。これが日本での生活で一番思い出になったことです。あのとときのメンバーは今でも3号館の4階でよく集まります。そして前夜祭のメンバーたちは今年の夏、韓国に遊びに来る約束をしました。ちなみに私は沖繩交流会を通して感じたことをテーマにスピーチコンテストにも出るようになりました。

で分かる様になりました。韓国にも、現在米軍基地があるところにあります。その中にはソウルの真ん中にある基地もあります。そして、米軍による犯罪が話題になっていきます。例えば米軍が韓国市民の飲料水として使われる河に毒性の液体を流したことがありますが、このようなことは韓国だけに起こることだと思っていました。日本でもこのようないふことがあつて初めて知りました。

打ち上げでは沖繩の学生と

もたたくさん話をする機会がありました。夜遅くまで三線の音が流れていたし、皆が集まって八重山踊りを踊りました。

私は沖繩交流会のことを祭りだと思えます。それは伝統的な食べ物があり、踊りや音楽があっただけではありません。人との触れ合いが大切で話し合う機会になり、分り合うようになったからです。私が日本に来て、しかも茨城に来て、こんなに沖繩の文化に触れることが出来ると

は思わなかったです。そして祭りの企画に参加できると思わなかったです。これが日本での生活で一番思い出になったことです。あのとときのメンバーは今でも3号館の4階でよく集まります。そして前夜祭のメンバーたちは今年の夏、韓国に遊びに来る約束をしました。ちなみに私は沖繩交流会を通して感じたことをテーマにスピーチコンテストにも出るようになりました。

社会に出るまでの準備期間 自分のやりたいことを見つけて 学生のうちにしかできないことを

文化交流学科2年次 大森直浩

今から私はこの茨城キリスト教大学に入学するまでのイメージと入ってからのこと、この1年間について話したいと思います。この1年間は私にとつて期待と不安の連続でした。まず、私にとつての不安は勉強でした。私の通っていた高校は農業高校だったの

で、毎日実習があり、みなさんが学んでいた5教科の授業は少なく、2年生で英語、3年生では数学がなくなり、パソコンを使った授業も少しかじる程度でほとんど使ったことがありませんでした。それでなくても、私はバスケットボール部に所属して勉強のことなど一切考えることなく高校生活を送っていました。

この1年間で学生のうちにか出来ないことをやりたいと思っています。それは海外旅行です。長期の休みが多い大学生生活で世界について学び、一人で世界を回ってみたいと思います。

考えた結果何も答えを出せず入学したため、不安が大きくなっていきましたが、授業をやってみると、私が思ったほどほど堅苦しいものではなく、あまり勉強をしなくてもかたせいか、逆に面白くなってきました。今考えると、やりたいことがあって入る人は自分の目標が見えていてすごいと思いますが、そうでない人にとってはやりたいことや勉強を見つけ、社会に出るまでの準備期間ではないかと思うようになります。今は大学生

活を楽しんでいます。

二つの期待

友達と海外留学

私の私はもう2年生になります。1年前の今頃は大学に入れないか考えていました。そんなことを考えていたのがつい最近だったように感じますが、春休みが終わればもう2年生です。大学の4年間は長そうでも短いのです。あと3年後には私たちのほとんどが社会に出ます。この3年間で学生のうちにか出来ないことをやりたいと思っています。それは海外旅行です。長期の休みが多い大学生生活で世界について学び、一人で世界を回ってみたいと思います。

楽しみながら

積極的に

あつという間に09年へ突入り、テレビや新聞からは「人員削減」「億円赤字」「倒産」など、暗いニュースばかり聞かされてきます。そんな暗い社会の中、私の就職活動は去年の11月に東京ビッグサイトで行われた就職合同説明会を皮切りにスタートしました。正直、「そんな早くからやらなくても……」と思っただけですが、世間で不況と騒がれていることもあり、就職情報サイト、合同説明会、本学のキャリア支援センターを利用して就職活動に対する意識や関心を強くしていきました。

就活のはじまり

私が活動開始時に考えていた職種は、システムエンジニア系でした。しかし、合同説明会や会社説明会に参加していく中で、他の職種に興味を抱くようになり、今ではあまり絞らないで活動しています。現段階では、営業、システムエンジニア系、サービスなどの企業説明会に5社、家電販売などのグループ企業の面接を1社受けています。どうしても興味がない企業はも

ちろん行きませんが、逆に少しでも興味がある企業の説明会には行くようにしています。面接では初めての企業面接ということもあり、準備を満足にすることが出来ずに無謀な状態で臨んでしまいました。結果はまだ出ていませんが、面接で上手く言葉が出ず、伝えたいことが伝えきれずに終わりました……。キャリア支援センターの方々も仰っていますが、面接もいろんな企業でたくさん面接を受けて経験を積むということが、非常に大切だということを痛感しました。

大学生活の中で

昨年11月から約4ヶ月活動してきて思ったことがあります。それは、大学生のうち何事にも積極的に参加し、色々な経験をすべきだということです。面接の時、「大学生生活でどんなことをして、そこから何を学んだか」ということを質問されました。私は所属しているサークルの話をしてきましたが、もし、学業も

面接や内定の日程というのは企業によって様々です。2、3月に内定が出る企業もあれば、12、1月に出る企業もあります。私は、春夏に内定を一つでもいただけるように活動していくつもりです。不況と言われていますが、それが原因で大変だなんて思っ

文化交流学科 4年次 鈴木英二

就職活動

実況中継!

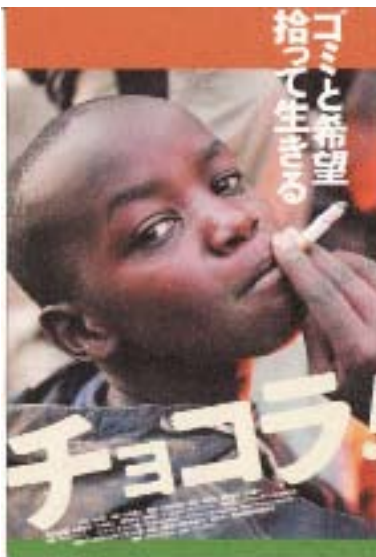
す。学業はもちろん、サークル、アルバイト、ボランティア……それらを頑張つてやり通せば、得られることがあると思いますので、「これは頑張った!」と言えることをしておくことはとても重要ではないでしょうか。普通の大学生活にそういつた付加価値をつけたいと大学生生活も楽しくなると思います。決して、就職活動のためにそういったことをするべきだ、と言っているわけではありませんが、絶対に就職活動の役にたつと思えます。

前向きな就活

面接や内定の日程というのは企業によって様々です。2、3月に内定が出る企業もあれば、12、1月に出る企業もあります。私は、春夏に内定を一つでもいただけるように活動していくつもりです。不況と言われていますが、それが原因で大変だなんて思っ

文化交流カレンダー

- ◆文化交流論の授業にゲスト 4月20日(月) 2時限 一三〇八教室
- カンボジアのアンコール大
- 学で日本語を教える松岡秀司氏。オープンクラスとしますので、履修者以外の聴講も歓迎します。
- ◆新入生歓迎会(同実行委員会) 4月25日(土) 26日(日)
- 学生たちが新入生を歓迎する企画。きつと友達ができる。
- ◆入学記念行事 5月9日(土) 10日(日)
- 文化交流学科は筑波に一泊旅行。つくばフェスティバル参加と地図と測量の科学館を見学し、旅館でミーティングやレクリエーション。
- ◆春季留学生交流会 5月12日(火) 午後6時 学生会館1階、(担当・国際交流部)



ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていません。この文字が、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

編集後記

■何日間か、改札口を通るのがちよつと楽しみになりました。私の乗車駅でもちよつとSEIが使えるようになりました。4月は暖かな春の季節と共に新学年がはじまり、フレッシュな気分が過ごせるのがいいところです。

【松本千里】

■厳しい寒さも和らぎ、日差しが暖かくなってきました。私の地元や日立市では、桜を楽しむ催しが今年も行われるそうです。春は、卒業や入学などで切ない別れや嬉しい出会いがありますね。毎年慌ただしいこの時期ですが、華やかに咲き、風に乗ってひらひらと舞う桜を見ると、穏やかな気持ちにさせられます。

【佐々木美和】

■今年も花粉症の季節がやってきました。きつと、これを読んでいる人で同じ苦痛を味わっている人も多いと思います。……「〇〇が花粉症に効くよ!」って特効薬を知っている人がいたら教えて下さい(笑)

【鈴木英二】

ロンゴロンゴでは編集部員を募集しています。興味のある方、質問や感想などお待ちしています。

●編集部メールアドレス
rongorongo_henyuub-owner@ahoogroup.jp

●本紙WEB版はバックナンバーを含めて大学のHPでらんになれます。

http://www.icc.ac.jp/univ/bunka/rongorongo/rongorongo.htm